

最初の話題は、日本の伝統的な服についてであります。これは、和服というふうには呼ばれることもありますが、着物というふうには呼ばれることもあります。

皆さんは、着物を着たことがありますか。着たことがないという人でありまして、それを着ている人を見たことはあると思います。私も、町なかで着ている人を見ますと、つい見とれてしまうのであります。

実は、私も着物を着たことがあります。しかし、一人では着ることができません。ですので、ほかの人に手伝ってもらったのであります。女性用でありますと、身につけるものが男性用に比べまして多くあります。このようなことから、着物を一人で着られるようになるのはなかなか難しいと思うのであります。ちなみに、男性の場合は女性に比べて簡単なのであります。こちらも、着こなすためには練習が必要であります。

ところで、皆さんは、着物は特別な日に着るものだと思っていませんか。確かに、大切な日でありますとか、記念すべき日に着るとい人は多いと思います。しかし、せつかくの文化です。これをもちと積極的に着てもらおうとする動きもあります。例えば、着物を着ている人が買物をしますと、割引が受けられるというサービスがあります。また、着物に関するイベ

ントなどで、様々な体験をすることができるといふものもあるようであります。さらに、国のある機関におきましては、着物で仕事をする日があるということでもあります。

最近は、日本を訪れる外国人が増えてきました。その中には、着物を着てみたいという人がたくさんいるようであります。また、実際に、着物を着て楽しそうに歩いている外国人を見かけることもあります。このように、日本の伝統文化を知ってもらおうというのは、とてもよいことだと思っております。

ところで、皆さんの中には、着物を着るのは面倒だと思っている人もいるのではないのでしょうか。そのような場合は、もっと簡単に着られるものがあります。それは、夏のお祭りなどで見かける浴衣というものであります。これなら一人でも着られるという人がいるようであります。

それから、着つけを教えてくださいるところもあります。ほかに、インターネットで学ぶという方法もあります。このように、着つけを学ぶということは、よい経験になるのではないのでしょうか。そして、着物をふだん着として取り入れるというのも面白いと思います。

私も、いつか着つけを習ってみようと思っ

ているのであります。
次のテーマに入ります。

私は、本を読むことが好きであります。読書の秋ということもありまして、最近もいろいろな本を買いました。しかし、どうしても同じようなものを選んでしまうのであります。ですので、時々、友人に本を紹介してもらいます。

このように、人から本を紹介してもらいますと、自分では選ばないようなものとお出会うことができます。実は、こうしたことをみんなで行うゲームがありますので、これについてお話をしたいと思います。

どのようなものかといいますと、みんなの本を紹介し合いまして、その中から一番読みたいと思った本を選ぶというものであります。

もう少し詳しく説明します。まず、ゲームの参加者を決めます。次に、その人たちの前で好きな本を紹介します。その時間は五分と決められています。全員の紹介が終わりましたら、読みたいと思った本に投票します。そして、最も多くの票を集めた本を決めるというわけです。

ちなみに、限られた時間の中で本を紹介するときには、ちよつとした工夫が必要になります。例えば、その本と出会ったきっかけでありますとか、本の感想などを話すのであります。このように、自分だけのエピソードを交えますと、より面白くなるでしょう。

それから、このゲームで紹介する本は、どの

ようなものでも構いません。小説だけではなく、漫画でありますとか写真集でもよいのであります。子供のときに読んでいた絵本を紹介する人もいるそうであります。

そして、このゲームで紹介された本を通して、その人の考えでありますとか、何に興味を持っているのかということなどが分かります。もしかしたら、仲のよい友人の意外な一面を見ることができるかもしれません。あるいは、同じ趣味の人と知り合うきっかけになるかもしれませんのであります。

時には、知っている本が紹介されることもあります。そのような場合でありまして、自分とは異なる視点があることに気がつくかもしれません。つまり、紹介する人を通して、その本のよさを改めて知ることができるのであります。こういったことが、このゲームの面白いところでありまして。

そして、これは学校などでも行われているようであります。そもそも、このゲームは場所を選びませんので、ルールを守ればどこでも行うことができます。ですので、身近なところだと、家でやっているという人もいます。

私も、皆さんに紹介したい本を探しておこうと思っております。

最後のお話をします。

私たちが生活するために必要なものはたくさ

んあります。その一つが水でありまして、料理や洗濯をするときなどに使います。これは大切な資源であります。ですので、使い過ぎないようにしようとか心がけている人もいるのではないのでしょうか。

また、水というのは、私たちが気づきにくいようなところでも使われています。それは何かといいますと、食べ物であります。お米でありますとか野菜を育てるためには、たくさんの水が必要なのであります。こういったことについて、ふだんは気にしていない人が多いかもしれませんが、雨が降らない日が続きますとお米でありますとか野菜が育たなくなってしまう。そのようなときに、水は大切だということに改めて気づかされるのであります。

また、お肉を生産するときも同様であります。例えば、牛を育てるための餌であります。これにもたくさんの水が使われています。つまり、水がなければお肉も食べられないということになります。

さて、ここで、食料自給率というものを考えてみたいと思います。これは、私たちが食べるものの中で、国内で生産されるのはどれくらいかということを表しています。そして、日本の場合は、これがとても低いと言われています。つまり、食料の多くを外国から輸入しているのであります。

先ほども言いましたとおり、野菜やお肉を生産するためには、たくさんの水を使います。当然のことながら、外国で生産されるものについては、その国の水が使われています。つまり、食料を輸入するというのは、その国の水を輸入しているということにもなるのであります。

このように考えますと、輸入している水というのは物すごい量になります。例えば、コーヒーであります。この原料となるコーヒー豆を育てるためには、たくさんの水が使われます。皆さんは、コップ一杯分のコーヒー豆を生産するには、どれくらいの水が必要だと考えますか。それは、家庭のお風呂に使うくらいだというふうに言われているのであります。

日本は、多くの食料を輸入している一方で、食品ロスというものもたくさん発生させています。しかも、これらの中には、水不足の国から輸入しているものもあります。食料を捨ててしまおうというのは、そういった国の貴重な資源を無駄にしていることと同じであります。

私たちは、水の大切さについて、もっと広い視野を持って考える必要があるのではないのでしょうか。(了)